

- 沿線に生きる人々と共に輝き続ける肥薩線を目指して -

開業から100年を経過したJR肥薩線。熊本・宮崎・鹿児島県の3県を縦断し、九州横断特急、SL人吉、いさぶろう・しんぺい号、はやとの風など魅力ある観光列車の運行により、沿線の地域は観光資源として恩恵を受けている。これからも肥薩線が魅力ある観光資源であり続け、沿線にある地域が恩恵を受け続けるため、地域はどうあるべきか、その方向性と活動について提案する。

チーム ” T-3 ”
田口雅也 (人吉市) 塚本秀子 (荒尾市)
立邊義広 (芦北町)

◆肥薩線の魅力

○鉄道遺産としての魅力

明治時代の技術の粋を集めて建造された球磨川に架かる橋梁やトンネル群、石造りの人吉機関庫や転車台、大畑にあるスイッチバックやループ線など、現役で活躍している鉄道路線。



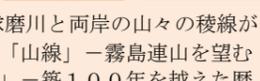
○個性的な列車の魅力

別府一人吉を走る「九州横断特急」。大正生まれの蒸気機関、優雅な客車の「SL人吉号」。困難を極めた矢岳越えを行う「いさぶろう・しんぺい号」、漆黒の車体に木をふんだんに使用した温もりある車内「はやとの風」それぞれに個性の光る魅力的な車両。



○移りゆく車窓が織りなす魅力

八代～人吉間の「川線」－翡翠色の球磨川と両岸の山々の稜線が織りなす幻想的な風景。人吉～吉松間の「山線」－霧島連山を望む一大パノラマ。吉松～隼人間の「田園線」－築100年を越えた歴史ある木造駅舎がたたずむ景観。



◆沿線の小さな集落の重要性

○肥薩線の魅力の一つ・・・

肥薩線の魅力の一つとして、車窓や降り立った駅から望む「景観」がある。肥薩線では、球磨川や霧島連山といった大自然と、鉄道遺産群が表現する個性豊かな風景が、地域に住む人の生活や営みとあいまって、良好な景観を形成している。



どんなに良好な「景観」であっても、それを成立させる人の営みや産業のシステムが無くては継続していくことは困難である。

今後も肥薩線が魅力ある観光資源であり続け、沿線の地域がその恩恵を受け続けるためには、「景観」を構成する小さな集落を、限界集落といった危機的状況から、持続可能な集落へと転換する必要がある。



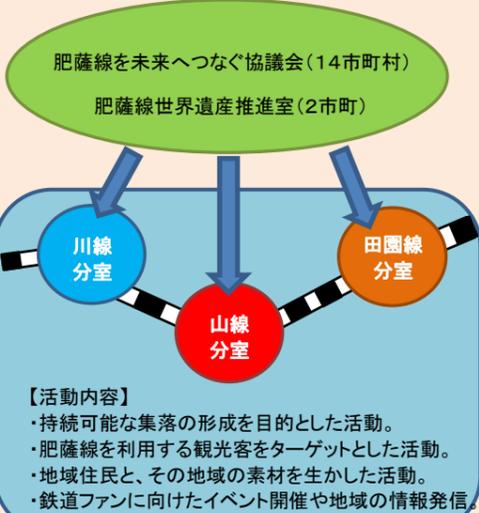
◆肥薩線の魅力(景観)を維持するための提案

○肥薩線世界遺産推進室(分室)の設置

肥薩線沿線14市町村で設立された「肥薩線を未来へつなぐ協議会」の協力を得て、『川線』『山線』『田園線』の3つのエリア内に、**集落維持活動の拠点**として「肥薩線世界遺産推進室(分室)」を設置する。

各エリア内の自治体により、(分室)の運営を行う。

- 【川線分室】 八代市、芦北町、球磨村
- 【山線分室】 人吉市、えびの市
- 【田園線分室】 湧水町、霧島市



○肥薩線沿線 関係団体の連携強化

【分室設置の効果】

- ・肥薩線に関連した集落支援が積極的に行える。
- ・県境を越えた自治体間で運営することにより、組織力の強化が図れる。
- ・沿線自治体が肥薩線の重要性を再認識し、連携の強化につながる。
- ・関係団体や地域住民と協働することで、意識の変革を促す。

沿線自治体の連携



関係団体の連携



分室

(運営支援員の公募)
集落支援員 制度を活用し、集落対策に関する知識と肥薩線への関心(情熱)を有する人材へ自治体が委嘱する。

【総務省 集落支援員制度】
・集落支援員の設置
地方自治体に対し、財源手当 支援員一人当たり350万円(他の業務と兼任の場合一人当たり40万円)を上限に特別交付税措置。情報提供等により支援。

遊休施設の活用。
休校など

◆具体案 ～ケース 山線～

○矢岳町の現状

- ・肥薩線の沿線に位置し、肥薩線中最も高い海拔536.9メートルの山間にある自然あふれる小さな集落。
- ・農業(水稲)、畜産
- ・人口 76人 ・高齢化率 51.32%

人口構成

年代	男	女	計	年代	男	女	計
0代	0	0	0	60代	12	9	21
10代	1	0	1	70代	7	6	13
20代	3	3	6	80代	2	13	15
30代	2	2	4	90代	0	2	2
40代	0	1	1	100+	0	0	0
50代	6	7	13	合計	33	43	76

43世帯 65歳以上39人(高齢化率51.32%)

位置図



－限界集落の危機－

人口構成は、高齢化が著しい。高齢者の割合が非常に高いため、負担の大きい労働は難しく、また、新たな取り組みに対する関心は低い。住民は矢岳駅構内にあるSL展示に対する愛着や誇りを感じており、SL展示や肥薩線とともに歩んできた歴史など、住民の関心を引くような取り組みが必要である。また、収入のない高齢者が多いので、少しでも収入の見込めるような活動を提案することが望ましい。



山線分室での活動

『矢岳鉄道情報館』

- ・休校中の矢岳小学校の活用。
- ・鉄道写真の展示、募集・受付。
- ・情報発信としてHP作成、更新作業。
- ・レンタサイクルの管理。
- ・SLスケッチ大会等のイベント運営支援。
- ・「矢岳おにぎり」運営支援。

施設の活用・整備費少



『矢岳おにぎり』

- ・「矢岳おにぎり」の販売。
- 山間部に位置する矢岳集落。山あいから湧き出る清らかな水で作られた「自慢のお米」。高齢者でも負担の少ない労働で、鉄道を利用する観光客へ提供する。ネット販売等のPR活動を行い、販売拡充を目指す。
- ・わずかではあるが、現金収入を得ることで住民の活力や生きがいづくりなど期待できる。

収益UP・PR効果



◆まとめ

平成23年に人吉市、えびの市、湧水町を中心とした沿線14市町村による「肥薩線を未来へつなぐ協議会」が設立され、また、平成24年には人吉市役所内に湧水町から職員1名が派遣され、「肥薩線世界遺産推進室」が設置された。世界遺産登録をめざし鉄道関連施設の調査や、D51(デゴイチ)の復活運行に向けた取り組みが行われている。こういった状況の中、私たちは肥薩線から観光資源として恩恵を受けている自治体の目線で、肥薩線の魅力を低下させないために、**集落維持活動の拠点となる分室設置**を提案したわけであるが、こういった活動を継続して行っていくことが、世界遺産を目指す活動へと繋がるのではないのでしょうか。

持続可能な集落 = 景観の保全 = 魅力ある肥薩線

肥薩線(観光資源)から恩恵の享受



沿線に生きる人々と共に生きる肥薩線

世界遺産への登録を目指していくには、長期的な計画のもと、地道な活動が必要であると考え、**「少子高齢化」「後継者不足」「農業の衰退」といった問題を抱え、存続の危機に瀕している集落には即効性のある政策が求められる。**肥薩線沿線には矢岳地区と同様に存続することが困難になりつつある集落が存在するが、これらの集落を存続させていくには、住民・行政・企業・関連する団体など幅広い関係者で連携をはかることが重要であり、その土地の個性を生かしながら、文字どおり点を繋いで線とし、肥薩線沿線の地域全体で活動に取り組む必要がある。今回の私たちの提案が起爆剤となって肥薩線沿線の連携強化と、地域の特性に応じた新たな政策の提案につながることを期待する。